

**甚大な被害が生じた愛媛県への
山地災害対策緊急展開チーム派遣
計画保全部 治山課**

平成30年7月豪雨により甚大な被害が生じた愛媛県から林野庁への支援要請を受け、山地災害対策緊急展開チームとして関東森林管理局から3名を派遣し、四国森林管理局からの1名も加わり計4名により、8月1日から8日まで、崩壊した山腹斜面の踏査・測量、図面等の作成を行い、成果を愛媛県へ提供しました。

以下、派遣職員の感想です。

少しでも役に立ちたいと気持ちがある反面、自分が力になるのが悩みましたが、近年の度重なる山地災害がある中、復旧の役に立ちたい強い思いと今しかないという思いで参加を決めました。

限られた期間での作業に当たり、現場状況等を踏まえ意見を集約することの難しさを実感し、基礎知識及び実地研修の大切さと経験の積み重ねの必要性を改めて感じました。

一番若い派遣者として、2名の先輩と四国森林管理局担当者の対応力を間近にし、チームとしてどのように進めるのかを常に考えて把握し、素早く行動に移すことこそ重要と感じました。

(大井川治山センター 田畑事業係 長)

現地は市道と県道に挟まれた崩壊地で、土質は粘性土、水分を含んだ地盤に足を踏み込むと膝まで埋まる軟弱箇所も存在するほか、倒木が幾重にも積み重なり、測量も非常に大変な現場でした。

今回のような大規模災害時には迅速な対応と判断が求められ、豊富な経験と知識が必要です。今後の業務においても、測量・設計技術・CAD



被災箇所全景

崩壊地内は、水分を含むとぬかるむような粘性土が崩落土として堆積し、崩落に巻き込まれた立木は倒木として積み重なる状態で調査・測量に当たっては酷暑も伴い非常に厳しく、また成果を基にした図面作成等においても、普段とは違う環境、かつ限られた時間の中で不安と重圧を感じての作業でした。



現地測量

習熟・ドローン活用技術・多種多様な工法等の知識・現場での判断力など、日々精進します。
(東京神奈川森林管理署 板倉総括 治山技術官)

こうした難しい状況の中、期間内に資料を完成し提供できたことは、派遣された3人が一致協力した結果のみならず、受入れ側の愛媛県、四国森林管理局の事前調整や協力、作業起点となった愛媛森林管理署の環境作りや私たちへの献身的な気遣いがあったことだと感じています。
(関東森林管理局 高木設計指導官)

最後に、派遣中にお世話になった愛媛県、四国森林管理局及び愛媛森林管理署の皆様へ感謝するとともに、被災地域の早期の復旧・復興を心より祈念申し上げます。



事務作業